

ワクモ対策のポイント

ワクモは代表的な鶏の外部寄生虫で、鶏舎に浸潤すると経営に大きな影響を与えます。そこで、ワクモに関する基本的な知識と対策のポイントについて説明します。知識を再確認して、ワクモからあなたの鶏と経営を守りましょう。

1・ワクモとは？

ダニの1種でダニ目ワクモ科ワクモ属に分類され、鳥類に寄生し吸血します。成ダニで1 mm程度の大きさです。卵から約9日間で成ダニとなり、吸血と産卵を繰り返します。

2・ワクモの分布と生態は？

ワクモは世界各地に分布し、日本国内でも北海道から沖縄まで広く分布しています。

ワクモが鶏を吸血するのは主に夜間で、昼間はケージのつなぎ目、アングル、卵受け、集卵ベルトなどの物陰や隙間、鶏糞中に身を隠しています。このため、発見されにくく、気付いた時にはすでに大量に発生している場合が多いです。鶏舎構造別では、開放鶏舎→セミウインドレス→平飼い→ウインドレスの順で浸潤度が高いことが採卵養鶏、育成養鶏及び種鶏場等を対象とした2009年のアンケート調査で明らかになっています。

3・ワクモの感染源は？

ワクモは、人、鶏や車両の他、運搬カゴや卵の運搬用コンテナ等様々な物品とともに農場から農場へと移動します。

また、野鳥がワクモを運ぶ可能性も指摘されています。

さらに、ネズミ、ハエ等によっても移動することが確認されています。

4・ワクモによる被害は？

ワクモ寄生による影響は次のとおり多岐に及びます。

☆ワクモの排せつ物、死体等による汚卵の発生

☆感染ストレスによる産卵率の低下

☆吸血による貧血、元気消失、重度ならば死亡

☆様々な細菌及びウイルス感染症を媒介

☆ワクチン接種に対する免疫応答の低下

☆作業者への寄生による、不快感やアレルギーなど

5・対策のポイントは

対策には、外部からの侵入防止と徹底した駆除が必要です。

次にあげるポイントを押さえた適切な対策で被害を予防しましょう。

① 整理整頓

☞ 塵埃等を取り除きワクモの潜む場所をなくしましょう。

② 長靴や衣服の交換、殺ダニ剤踏み込み消毒槽の設置

☞ 作業者が感染を広げるのを防ぎましょう

③ 器材の高温、加熱処理（ラックやコンテナ等）

☞ ワクモは65℃以上の熱に弱いという特徴があります。

④ ネズミ、ハエの駆除

☞ 感染経路を断ちましょう

⑤ オールアウト後の鶏舎・器材への薬剤散布及び高温加熱洗浄

☞ 特定の薬剤に耐性を示すワクモも存在することから、効果や使用履歴を見ながら適切な薬剤を選択しましょう。

☞ 指示された用法・用量を遵守してください。

☞ ワクモの生息しそうな場所に重点的に散布しましょう

⑥ 再導入前の再度の薬剤散布

☞ 産卵中の鶏舎での薬剤の散布は避けましょう。

⑦ 約1か月間の空舎期間

⑧ 定期的なワクモの汚染状況の確認

☞ 前述したワクモの潜みそうな場所を入念に観察しましょう。

⑨ 段ボールを応用したワクモ駆除方法もあります。

☞ 適当な大きさに切った5mm厚程度の段ボールをケージ天面に固定し一定期間経過後に回収・殺虫する方法です。

詳しくは「栃木県 ワクモ 段ボール」で検索して見てください。

以上のように、鳥インフルエンザ対策等で平日頃からお願いしている飼養衛生管理基準の遵守は、ワクモ対策にも非常に有効です。今一度、飼養衛生管理基準の遵守の徹底に努めましょう。

※ご不明な点等ございましたら、家畜保健衛生所までお問い合わせください。

神奈川県県央家畜保健衛生所

〒243-0417 海老名市本郷3658

電話：(046)238-9111 ファクシミリ：(046)238-9124

東部出張所 〒226-0015 横浜市緑区三保町2076

電話：(045)934-2378 ファクシミリ：(045)934-5432